

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	放課後児童クラブ（学童保育所）
事業所名	岡山学区寺小屋水茎 第1. 第2
代表者氏名（管理者）	理事長 伊藤 秀樹
法人名	NPO法人 はちまんキッズ
定員（利用人数）	各45名
施設・事業所所在地	近江八幡市加茂町3818-2（第1. 第2岡山小学校敷地内）
T E L	0748-36-2235
F A X	0748-36-2235
電子メール	hachimankids@gmail.com
ホームページアドレス	<a href="https://www.city.omihachiman.lg.jp/material/files/group/197/syukai2.pdf">https://www.city.omihachiman.lg.jp/material/files/group/197/syukai2.pdf</a> (近江八幡市ホームページ内)

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
評価実施期間	令和7年10月24日・10月29日

### 3 評価の概要

#### ○ 総合評価

岡山学区学童保育所 寺小屋水茎は、自然に恵まれた立地にある放課後児童クラブです。当児童クラブは、地域のこどもは地域で守ろう。と岡山学区に住む有志のボランティアの熱い思いで発足しました。2013年にNPOはちまんキッズに移行し、入所希望者が増加し遊びや放課後の生活の中で人間形成を育んでいます。児童の放課後の安全確保と健全育成を目的とし、また長休みの児童の安全や生活場所を確保するために、働く保護者等には必要不可欠な場所になっています。学校では同級生と関わりますが、放課後児童クラブでは異年齢の子ども同士で遊びながらルールを学び、思いやりや他者への理解を自然に身につけることができます。

岡山小学校に隣接しているため、小学校の敷地を出ずに帰ってくる事ができることも大きな利点です。運動場で体を動かして遊ぶことも出来、日々の遊びを通して友達に対する思いやりや集団での決まりを守る心が身に着くように、指導員が自然な形で見守っています。

#### ○ 特に評価の高い点

##### 【良い点】

##### 1. 保育環境の整備と安全性・活動の自由度

施設・設備：学校敷地内に設置されているため、施設は広く、明るく、設備が整っています。平屋で見通しが良く死角がない構造は、安全管理上優れています。

活動環境：学校のグラウンドを活用し、児童がのびのびと外遊びができる環境にあります。これは、身体的な発達を促すだけでなく、いじめが発生しにくい環境づくりに貢献しています。

児童の活動支援：個人ロッカーに加え、折り紙やお絵描きの途中の作品などを保管できる個人用棚が整備されています。これにより、日をまたいで活動を継続できる安心感を提供し、児童の自主的な作品づくりを支援しています。

##### 2. 個別支援体制と質の高い保育サービス

個別対応と保護者連携：アレルギーや障害など、特別な配慮が必要な児童については、入所前の丁寧な聴き取り面談を実施し、保護者と連携して対応方針を決定しています。

チームによる支援：障害のある児童に対しては、指導員が一人ついて見守りを行うなど、職員間のチームワークによるきめ細やかなサポート体制が確立されています。

情報共有：毎日の指導員ミーティングを通じて、児童に関する情報が細やかに共有されています。

関係改善支援：児童間の喧嘩においては、仲裁に入り双方の言い分を等しく聞く姿勢を徹底しており、子どもの成長を支える適切な援助技術が用いられています。

関係機関との連携：学校とも必要な情報を適宜連携しており、風通しの良い連携体制が構築されています。

記録管理：毎日の保育日誌が詳細に記録・管理されており、職員間で懸念事項や気づきを常時共有できる仕組みが機能しています。

保護者との協働：毎日の送迎時の会話を大切にするとともに、年間5回の保護者会を開催し信頼関係の構築をしています。これは、保護者に放課後の過ごし方について共に考える機会を提供し、家庭を巻き込んだ地域の子育て文化として特筆すべき取り組みです。

### 3. 職員の資質向上と良好な職場環境

継続的な研修：保育の質の向上に直結する、年間を通じた研修機会が豊富に用意されています。研修内容は倫理、危機管理、事例検討など多岐にわたる分野を網羅しており、職員が幅広い専門知識を習得できるよう配慮されています。

また、職員自身の自己肯定感を高める行動を子どもたちが受け取り、自分自身を受け入れ表現できる環境があると感じました。

温かい職場環境：職員間の信頼関係が良好であり、困った時や迷った時に気兼ねなく相談できる環境が整備されています。評価中にも職員同士の明るい笑い声が聞こえ、心理的安全性の高い職場であることが強く感じられました。また、様々な課題に対しても柔軟な対応の可能性があると感じました。

## ○ 改善を求められる点

### 1. 法人としての基盤整備とリスクマネジメントの強化

苦情解決体制の整備と周知：苦情解決に関するマニュアル作成は進められていますが、第三者性・客観性の確保のため、外部に苦情解決の窓口を設置し、苦情を吸い上げる仕組み（意見箱や第三者委員の設置、保護者との個別懇談期間を設けるなど）を構築することが必要です。また、そのプロセスを保護者に対して明確に周知徹底し、透明性を高めることが、クラブ運営の質の向上に繋がります。

リスクマネジメントマニュアルの充実：災害時の安否確認手順、施設外への避難時の連携や確認方法について、より具体的かつ詳細な明記が求められます。さらに、職員による不適切なかかわりを予防するための早期発見・防止の仕組み（チェックリスト、相互観察、研修等）を明確に定め、既存のマニュアルにさらに盛り込む必要があります。

### 2. 法人理念・倫理規範の明確化と職員の行動指針策定

理念の簡潔化と人権尊重の明記：現在の「めざす子ども像」に加え、クラブ運営の根幹と

なる簡潔で分かりやすい法人理念を策定することを推奨します。特に、対人援助職としての基本姿勢である「子どもの人権尊重」「児童の生き生きとした放課後の保障」などを理念や行動指針に明確に掲げ、職員が支援に迷った際に立ち返る基準として機能させることを期待します。

期待する職員像の策定：理念に基づいた具体的な「期待する職員像」や行動規範を定めることで、職員の独りよがりな支援を抑制し、統一された質の高いサービス提供に繋がります。機会を設け唱和するなどし、理念や職員像が個人の意識に根付くよう進めていってください。

### 3. 中・長期的な経営ビジョンの策定と広報活動の強化

ビジョンの明確化：児童数減少と民間学童の増加という経営環境の変化を見据え、今後5年、10年を見通した具体的な中・長期経営ビジョンを明確に策定することが急務です。このビジョンには、人材育成・確保の戦略を含める必要があります。

クラブの強みの発信：当クラブの優れた点や特色（保育環境、個別支援体制など）を、保護者や地域に効果的に伝え、選ばれるクラブとなるための広報戦略（アピールポイントの明確化）が必要です。その第一歩として、法人としての公式ウェブサイト（ホームページ）を開設し、情報発信と広報活動に取り組むことを期待します。

子育て環境が激変する現代において、当クラブが保護者の主体的な運動から立ち上がったという歴史的経緯は、極めて大きな意義と価値を持ちます。

今後は、その原点を活かし、単に子どもの放課後を支えるだけでなく、「我が子の育成を学童任せにしない」という保護者参画の重要性を分かりやすくより積極的に地域へ発信していくことを期待します。さらに、クラブが持つ高い信頼性と支援体制を基盤とし、地域の働く保護者にとっての包括的な子育て相談窓口や保護者同士の交流の場としての機能を強化することも検討に値します。本クラブが地域社会にとって、より一層信頼され、子どもの健やかな育ちを支える確固たる拠点（核）となるよう、これまでの良さを継承しつつ、今後も意欲的な取り組みを進められることを心より期待しています。

#### 4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

当法人の特徴が地域から出発した学童保育であり保護者を重視していることや、国の運営指針とともに全国学童保育連絡協議会をはじめとした各種研修への積極的な参加などを通じて質の向上に意識的に努力していること、そして現場の努力等が評価されていることは、職員にとっても励みになります。

同時に、基盤整備、リスクマネジメント、理念や職員の行動指針、中長期ビジョンなど、その内容や手順などが客観的に明らかになっていないことも多く指摘されました。これらのことは、運営において意識していないわけではないが、適切に明文化されていないものも多く不明瞭であることも事実です。今後、質の向上をはかりつつ安定した運営をめざしていく、また、職員の確保・育成や機能の強化をはかるうえで重要な点であり、そのことがあらためて明確になる評価でした。

保育の充実や研修にとどまらず、運営面の整備につなげていけるよう、今回の評価を受けて改善をはかっていきたいと思います。